

• 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 JAPAN Tama

3754
3
1

安政見聞誌 下



ヨリ
門號 3754
卷 3

まつり
梅屋
御機の
毎門闇
うるわれて
一物す
な



大書院
時
第24回
藏

江戸御城の見附數三千六ヶ所あり 一萬石
は彼の地裏めて何をの故換せざる也

築一四谷四つの櫓へ底根より石垣
並と瓦葺ふあくやなるおと一戸又

堅固きと城門小たとてのア施かば

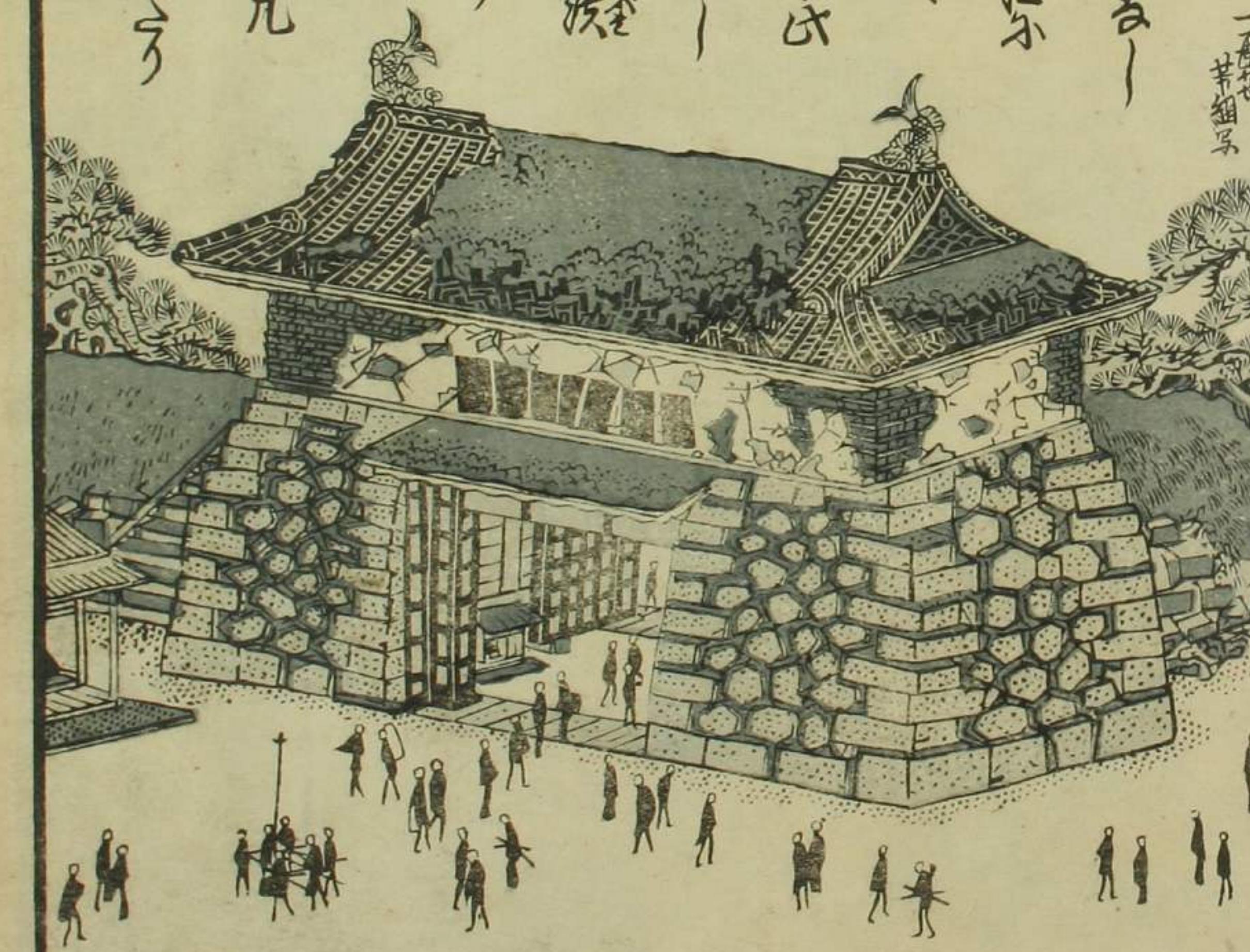
あともうるゝと氣震勁の強と氣

改ふたす東方馬場並門等の裏渡

其形みた放墨せし所と大破や及ず

葉と表す一社やう地裏數

有と唯今後のおとく成ゆとさるを凡



そまこ高き不界

一章
其細字

そも地下よりすら死へ眼

眩暈き足喬ひ是よりら

氣心小器をあて落するあ

一命ふ及ばんと必定とあふがま不協

み心身残酷するくま不今會の

大變坐焼ましに殺さまの

中木本屋門を並びす

石垣三千五百餘丈が極へ

えざれをもよおきそれゆき重

き頬筋又至參詔域と

めどろ古ねむ枝梅け根散りき

往來は枝葉ノ屏風不喰ふ切石也

えんよめあれあふとんと

筈と丸て搖ふを或ひゆくか

ぬけかくて今ふもあきびよえり

あちかるべき秋物へ見あづゆ

せのぬ一の種ふみえと

金瓶虫



楊と破換爲而至△馬妻村日あ方因る吸に家丁砂利場を武家も院民家
を破換レキ而至△婆見楊毛武家町の大破換△毛園面場完八膳本社掌美
日樓丁裏サミ丁改代丁古門丁小月向毛と大破換爲而至中軍丁矣東下也
赤城つあ子ち丁書丁大破換而返丁牛山△外々怪手板と表側破換爲一日而方爲而至
牛山△外々怪手板と表側破換爲一日而方爲而至而方爲而至

丁山佐丁松並土物△月不組甲大破換爲而至△秋葉役田丁大内役うち
而方以納丁加紫中既体也丁破換爲而至△市若山△外尾別役而方
門田△窟大久保以毛檜鹿△年賀丁大破換爲而至△大乐若
松丁万年極檜鹿△毛溫年△奉村丁引さん年賀丁大破換爲而至
淨雪毛櫻丁歲而至△傳毛平破換爲△活丁大破換爲而至△大乐若
而方爲而至内毛物而至△肉多役河役下也死破換日而方以切日組
而方爲而至△金達外體△楊毛丁毛大破換門而方大焉丁
而方大破換

△赤坂山△外紀別役奉平月不變△楊仲丁小丁怪勝包丁大破
而方大破換爲而至△六月延祐福少後小日若破換爲而至
△毛山武家民家爲而至△不需月△升方支毛毛被換爲△毛毛若
叶毛大破換爲而至△勞の内妙法毛不差毛失つあ少破換△赤坂田丁而方牛
而方爲而至△毛毛若而至△毛毛若而至△毛毛若而至△毛毛若而至

△赤坂山△外慶毛毛爲而至△今舟若破換爲△六本木毛而至△移去
武家町家毛爲而至△井楊毛被換爲△温毛而至△渴毛被換爲△渴毛被
及上大破換△布毛東丁毛大破換△長毛被換爲△破換爲毛大破換純篠碑
御毛而至△外人破換爲而至△目毛不動本毛毛毛毛被換爲△而毛被
丁大破換△瑞毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛
△虎毛外慶破換毛坂市毛源丁毛方大破換爲而至△而毛久保大破換波
家毛△がせんが若大破換武家町家毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛毛

○今般の地震にて被災の慘重

はあま東取立葉井丁の被災
の害よりは西弓神明前まで

三角丁門前丁へ二日の夜あふ

の八家の大造へ倒壊あまの

本尾みて山のがとく倒れらまふ

穴のきうーへ各かたの屋

さくまよう渡家の下おうて

怪我ち一人もなしをびへく

底板のようねと突ててやわの

ゑとばて輿りを体又神明

境内へて破損きずなを率社へ

至るに南房七引丁町内中は累
丁のあつて初搗はじつき色たるや被災無
事ありて總て火災の多^シを要
他外ふて也甚^{めい}強^{きよ}一地震小筋
にて毛ふある所初搗強^{きよ}とづると
今後おも合^シをみのあつ^シ一あつ

神威致^しやまとをあまきて

初から國民備震因

神力よ

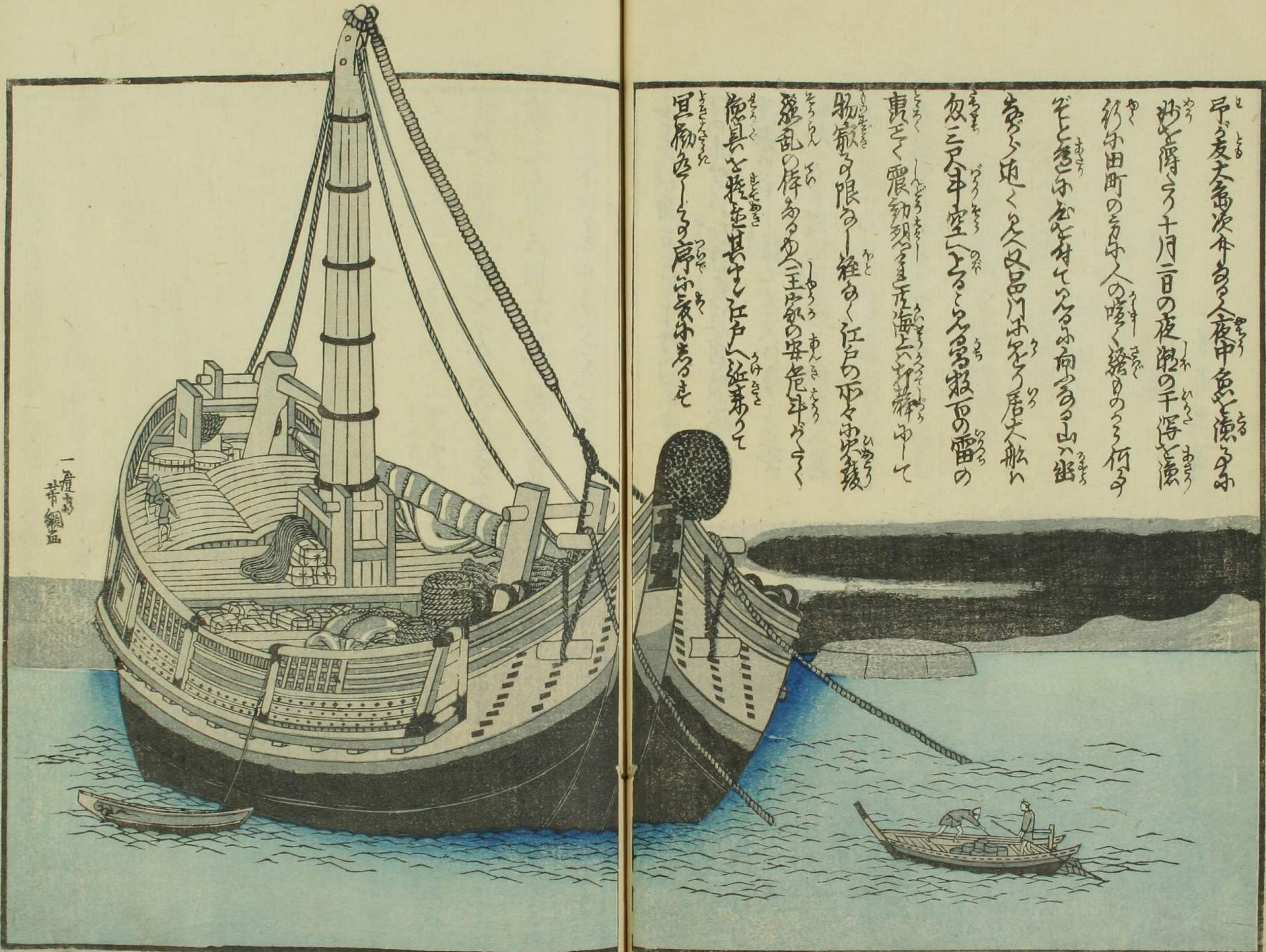
佐々木

一筆斎英尋

一筆斎英尋



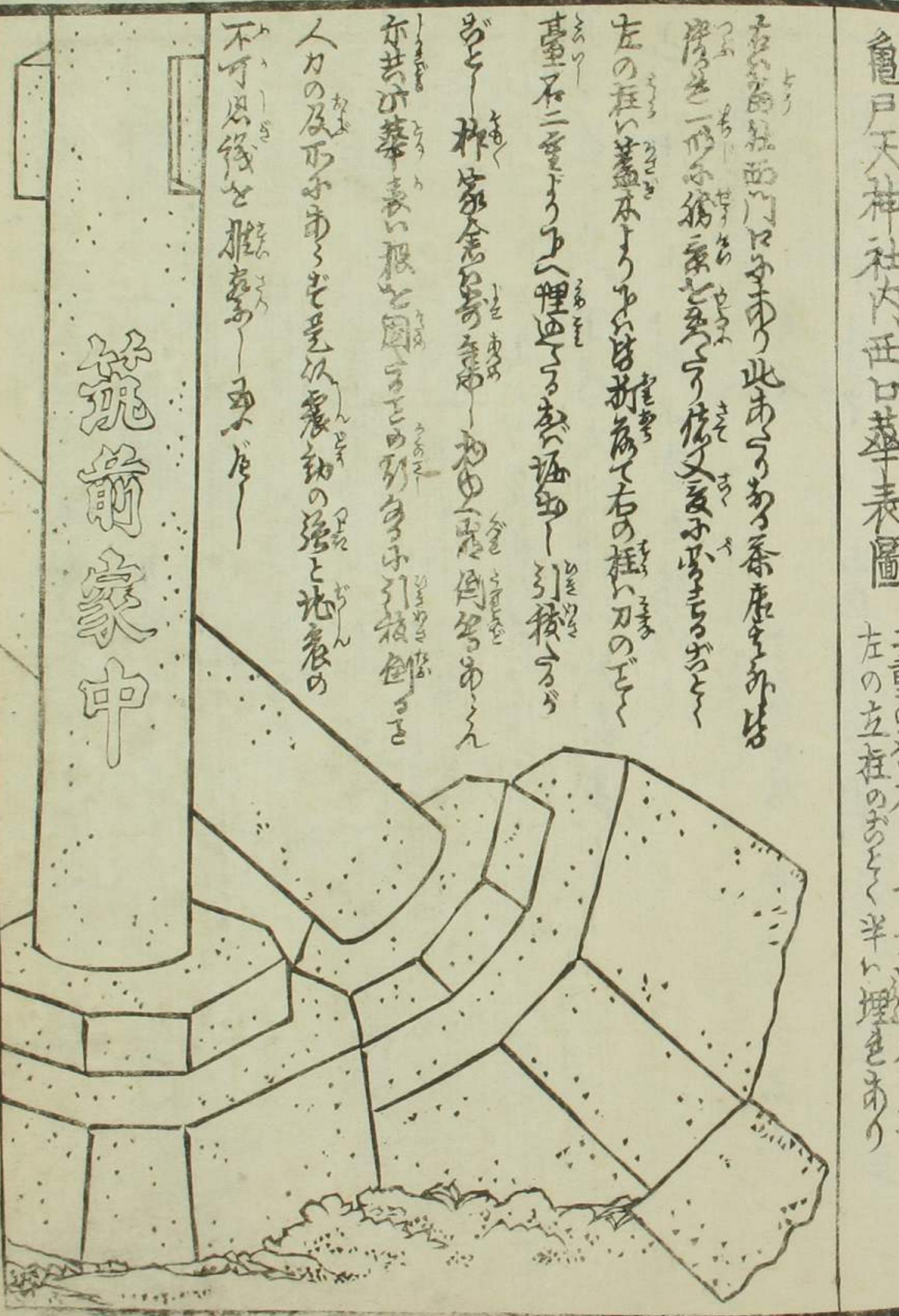
早と友太為次舟をさへ夜中急と漁あふ
めと齊う十月二日の夜船の干溝と漁
船田町の方舟人の喰く縫りのくら何す
ぞと急に舟を舟てなるふ向うる山へ出
あましぬくと又呂門舟をさへ居大船へ
奴ニテ半空よりと見る波百の雷の
夷を震動烈至れ海と六打繩やて
物寂の限る一絆ゆく江戸の所をゆく
羅亂の岸あるゆ三王の安危牛ぐく
備具と船を甚ざし江戸へ延あつて
冥勵ひ一も序が氣があるも



△宇治友小泉氏と總の方要るをそそぎ居る衣袴表みては表大丈の厚と
手甲のみを捨て送りてお歸候候先に當て未だ十月四日夜丑刻より小村か
て年賀仕に又方女二万手より四と拘泥する所統合しきべからんとよて是を
名とするが其容儀うござる女を吾其のまゝとすむと云ふと止ぐ。又
又丁斗立る手少サド付するをうちんと思一若無み人半立つ小泉と絶合せ見
連れる夫と女を立ばざやと聞く巨乳の女の身を禮不承しまへ今へ返詰る事
叶へぬぞひき返さんとえまへ遙へ遙くまへ小泉を放ときの小島村左の庄の
妻由女といふ老母衰の行楽中放さざう一方の小兜をがんとめども猶礼ゆゑて禮
人ふなく是殺ふる不役ふと費乳を乞ひ公任を父ハ公廟み縫を尔來夜
其兜と取ゆ一乳を十分ふのませ室内外列と定すとモ足底て立て余くみだ
成工と號すぬ因之小泉が高坂女侍の侍う程、諸坐せたゞ母の亡魂、やて我子の
生氣小ひ金亦方不て乳とせまて又連東あらんとスル黒毛足あらう

龜戸天神社内西口華表圖

二重の磨石より下方四尺八寸半あり
左の立柱のあくと半埋きあり



御魂箭家中

△聖宸下敷おもとかぬ色總度上中下庵破損患紀

△天塹てんきょう也然院大破損だいはくそん万年ふ喜松きしの因トいん△聖宸社大破損だいはくそん△之緣えん山增さんぞう之寺破損だいはくそん大破損居不多まつ△切無きりなしだ武家庵ぶけあん破損はくそん△因不令いん院大破

△御ご外ほか南方總度大破損だいはくそん△牛久代地うしくだぢ阿大破損居不多まつ因南方薰房くわんぼう町まち丁半燒ひんやき居ゐと疑うづ△牛久小洋うく居ゐとある△方根半ひん居ゐ△家後いえのち△同不休見ふげ丁ぢがざ丁ぢ保ほ丁ぢ居ゐ△丁居ぢ居ゐ△大破損だいはくそん居ゐ多た一

△山下門門外ゆげ救すく小庵こあん之被引人

一 岩百蔵いわひさぶ辛夷文

新義しんぎ丁ぢ丁ぢ目

一 小妙二十葉文

本枝玉ほんえだ序じゆ地ぢ信しん

一 玄武げんぶモ筋すじ々

尾附おづ六右朱ろくうしゆ

一 瑞二百文みずゑ々

本枝丁ぢ月つき納な地ぢ附つき

一 菊美濃きくみの一格

家持いえもち施せ之の序じゆ

一 菊美濃きくみの一格

佐さ本道ほんぢ左序じゆ格がく代だい友とも

下しも總玉そうぎょく次たび歌布かふ佐村さむら百姓ひやくせい

七序しちじゆ共とも朱しゆ

一 生姜じょう漢かん一格

下しも總玉そうぎょく次たび歌布かふ佐村さむら百姓ひやくせい

七序しちじゆ共とも朱しゆ

一 楠くす漢かん一格

下しも總玉そうぎょく次たび歌布かふ佐村さむら百姓ひやくせい

七序しちじゆ共とも朱しゆ

一 三田毛みたけ赤羽あかね橘たちばな有馬ありま庚こう水みず宮みや緋ひ門もんの隣となり

大だい東とうの方ほうへ百石ひゃくせき余搖よよ居ゐ多た△薩さつ久く振ふ衰せおえ破損はくそん居ゐ外ほか比ひ也よ武家庵ぶけあん破損はくそん也よ△總坂そうざん東とうああ大だい破損はくそん也よ

△山下やまし門もん外ほか大だい破損はくそん也よ△本枝ほんえ居ゐ不ふ多た一

一 朝あさ木き居ゐ不ふ多た一

△樹木じゅ辰辰大だい破損はくそん居ゐ不ふ多た△大だい破損はくそん二に本枝ほんえ居ゐ不ふ多た

△池いけ上う本もん門もん大だい破損はくそん也よ△本枝ほんえ居ゐ不ふ多た

△全ぜん枝えだ橘たちばな有あ方ほう本もん芝しば居ゐ△破損はくそん居ゐ不ふ多た

△田町たんまち居ゐ大だい破損はくそん也よ△也よども居ゐ不ふ多た

△小石川こいしかわ伊和いわ庵あん也よ△旅たび翁おきな也よ△射洪しゃこう也よ△外ほか太だい破損はくそん

△芝しば也よ△射洪しゃこう也よ△破損はくそん也よ△居ゐ不ふ多た

△射洪しゃこう也よ△破損はくそん也よ△居ゐ不ふ多た

△一祐千百格 除門八帳社内
小殺少食小施

正月

同

平芝庵 春七人

一因三千五百格 小殺少食小施

正月

同

人

○然紫井町本例ともそ丁焼るあへ化粧衣中座姿未みて止ま東へ余津旅中座姿未みて止る

△一全武朱ツマ町門ト

正月

燐庵

集

一全武朱ツマ町門ト

同

丁杵庵

集

九月朱ツマ紫井町小施

△化粧候 諸譯慶邦今度化粧小付て隣ふく諸侯へ覺察松枝枝子枝を不定式入用済年元出納戸令をも出をもす小門番浮附も老才燒失キト經床搖波き必出く強深くえべきとぞ即日少次洞見きし山木末五年二年入毛後ツ新別不空也くゆト幸

又町役の老者人吳者人食事へ全二分リ漏て下さるあ年も其家方は發給の事
捕うふ右の丁と被多の城廬屋敷に多人数の狼狽成敗ひまくア難ちの
事と感波ふ居るのみ在るみ紫井丁の住居画筆を以てせよ何某
うちの左近役を頃のく漏く怪しきが數燒後りまく住居より世ふた隣家と
鳥く飯を食ふ事無く半の食事持へるみ居宅の口縁あるゆく廉黒あつぐく
御方へ詰けんと詰くタリ小荒札の食を取へたゆく餘方をく披れ圍碁へ合
意秋毛よふ座へ是を守る友人これをこそ悟得のを思ふ人第無ドク
是を却くふ大字ようの傍候ふよゐと稱まくたまゆう

○荒経始明石丁十歩丁卦丁四方燒る松草屋路松上年いただ燒日而細川
然も換衣被換身被丁隣丁本大破換端多く燒失日あへつたぢ一春大本
換也よき本來の本堂被換も中僧房大破換端多く日不殺も様も方哉
町家を破換端多くよ大破換端多く上橋家丁

あ小田原丁南あ木下丁大木被る日也方あ八丁場割所處を多様塔主つて
而後表側破被換井伊揮約換中やれ跡列換中中和木之然換松平素の換工
中久中門換上多數被換松圓防換上中大被換小笠系綱換換中久中門換
破中換要平換中屢々大被換而あつ△合門換も方去移換下中久万年
換△山被子み丁因ようある武家附とめ大小岩瀬取急△
換△山被子み丁因ようある武家附とめ大小岩瀬取急△
換△山被子み丁因ようある武家附とめ大小岩瀬取急△

一ノ木被子

主筋外へ移出而文

人 人

△湖洞處も方松村丁伊豆生換場田換下中久板倉圓防換中久板倉換
下中久板倉も局不あり△東方三の鷹本鹿換下中久板中換下中久板
生換中鹿換場山換中久板中換下中久板中鹿車大羅換上
生換中鹿換場山換中久板中換下中久板中鹿車大羅換上
鹿車久板中鹿換場山換中久板中鹿車大羅換上△銀座尾澤丁所川

丁山被子丁内多丁八木丁大被換而有△立委ら丁深山丁瑞丁共名
丁大被換△山下山の内獨鷹加蟹換大被換

四〇

革被山の内松平附之助換伴大修津換輕院應井溫被換後の方半燒て

此も同少方も初度被換有る被換換伴大修津換後の方半燒て止る

所被換△換丹羽吉被換わ木を△換小笠系修復換山家お種換大被換而後

△月比若山内松平紀大被換燒る長列換後の方大被換て大是事一日所

以用而後大被換為可也△外櫻田井伊揮約換上中久板長屋被換

△鹿ケ園萬國換表側換足矣其處處る日而妻鹿換被換△虎山の内總

とも被換為所ひ度寒く紀一之△△之約換邊大木肩と大村換被換而

月而少方少ゆて而為有△山王社曾是燒肉被換つて而有丹羽移す
被換為而後△赤被山の内あ方而大村の而被換ゆえ寒く紀一之△

△達ナ門を大被換為而有△少方町家大被換△平川大林社被換而

燒篋主修櫛日^ト西^モ替^タたる^ダに^シ東^モ不^モ廢^トり^ダ一^モ武^モ町^ア大^モ
大^モ被^モ歲^ア一^モ△^モ粧^モ丁表側^モ被^モ換^モ左^モ歲^ア不^モ一^モ而^モ有^モ小^モ裏^モハ署^モ
△^モ粧^モ丁堅^モ粧^モ多^モ約^モ被^モ換^モ歲^ア津^モ御^モ五^モト^モ紀^モ九^モ月^モ板^モ粧^モ田^モ
翅^モ板^モ粧^モ多^モ外^モ被^モ換^モ歲^ア一^モ

四(一) 小門丁一^モの内一^モ粧^モ角^モを多^モ後^モ換^モ而^モ粧^モ次^モ年^モ被^モ換^モ内^モ被^モ換^モ而^モ
燒^モ表^モハ^モ被^モ換^モ粧^モ式^モ被^モ換^モ而^モ粧^モ不^モ後^モ換^モ而^モ
日^モ而^モ少^モ方^モ申^モ粧^モ丁^モ粧^モ田^モ被^モ中^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モの^モ一^モ粧^モ少^モ粧^モ而^モ後^モ換^モ
長^モ若^モ門^モ粧^モ丹^モ止^モ日^モ而^モ內^モ被^モ換^モ向^モ南^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
海^モ辺^モ之^モ見^モ一^モ度^モ一^モ粧^モ少^モ被^モ燒^モ又^モ粧^モ田^モ被^モ中^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
金^モ第^モ被^モ衣^モ全^モ之^モ堅^モ伏^モ久^モ保^モ粧^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
門^モ若^モ我^モ衣^モ本^モ多^モ新^モ見^モ粧^モ年^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
少^モ間^モ不^モ被^モ換^モ而^モ粧^モ年^モ中^モ被^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ

四(二) 小門丁^モ内^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
年^モ去^モ粧^モ太^モ唐^モ而^モ而^モ本^モ月^モ萬^モ家^モ中^モ條^モ中^モ務^モ山^モ本^モ丹^モ被^モ燒^モ年^モ中^モ燒^モ而^モ
△^モ被^モ換^モ緒^モ被^モ換^モ而^モ被^モ換^モ本^モ而^モ
△^モ筋^モ遠^モ内^モ村^モ粧^モ丁^モ粧^モ丹^モ被^モ換^モ而^モ被^モ換^モ本^モ而^モ
粧^モ紺^モ而^モ内^モ大^モ被^モ換^モ而^モ
一^モ簷^モ簷^モ百^モ立^モ十^モ候^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
一^モ全^モ立^モ分^モ完^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
一^モ全^モ立^モ分^モ完^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
一^モ粧^モ牛^モ牛^モ粧^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
一^モ全^モ立^モ分^モ完^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ
△^モ粧^モ年^モ方^モ而^モ冷^モ亭^モ油^モ丁^モ涼^モ丁^モ本^モ浪^モ丁^モ大^モ涼^モ丁^モ亦^モ立^モ被^モ換^モ而^モ△^モ粧^モ年^モ後^モ換^モ而^モ

西子一△同萬方乃延河岸稻為始濱丁若岩川丁四〇一人被丁據丁
肩及丁松木丁而被換器西多一△小綱丁塔江丁小舟丁邊赤年號失
份事也新家ゆる處西子一△小田原丁津吉橋丁江半橋也被換者有處不才一
△日辛格少方案丁十物表今門獨と大被換器多處西子一△義翠平媛江丁
被換者丁不滿金河舉上の内而被換器西子一△同萬方者營橋内就が換
文被換器井なる換小室承な京換上中に被換夏同たを換被換△神口萬角
傳奏多發細し換吳服橋内就元換翠平母豆換大被換器西子一△萬國而長
屋院を新被換△同萬方松平母被換水世國防換鐵後換ち妙換古妙換工
屋敷仰きも被換器西子一

四△大名小渉而く被換器西子一△被換金格因承井臺に換本多仲勞換中子一
松平吉宗換大井大娘換大被換て大是子一

五

△代渺海岸寛大浦中松林大景換生差組る換と燒日不圓列換木方燒

と主とあく止る龜口角附鉢修繕換東も万趣居る
四△高場山かじく内本良誠中換山の屋本玄安麿根松地筋あ換西井左角換
大被換器西多一△松平少總換内多紀修換やけり
五△和田金口の内松平紀後換日向守一丸は赤りつゝ殊者西子一△松平修換
換と屋敷大被換

△大名の湯舟雅樂換日向多義吉川坐明換燒る△一ツ橋口内行橋
島の清かじく田安口の内本被換あまきも處西子一
△日高萬方代友丁大被換器西多一
△車船口内大被換
右之介は脣内町く武家寺院官社町處多と而く相紀渴するもの後
第三回

△小品門高村丁月宗助地情様年慶後世金田庵ある狼狽の半扇
十五年十月一日夜地震有ある内海強烈も傷肉へと延び四日夜
援の老人引き月十一日ほり水火の難最危一海あゆめの身を危
難逃走一もき続み是れより度べ一而猶うそく模範を税もよと
ひよとろへてか夏中めぐらみ一ツの明臺をねう余つの本と後よう
山城に代友へ終とあり一も又奇とりべー

△渡辺八郎寺町

曹洞派禪宗

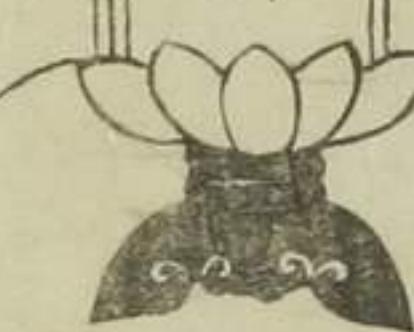
天龜山

主宗寺

十月二日夜地震て本堂傍房より搖晃至一物も揺るふ
重慶燒竹立序才たるみ患燒元の如なり後牌のみ拂ると又奇

妙諦院實相貞觀大姉

年号月日



是ハ崇安寺貝井千石余以鷺木之
佛靈牌の下に是のみ拂る所裏
奇妙とりべー



(馬場先新門守丹羽長門守様藩中
在室に所居固役之有し此處の地震みて御見附櫓并御見張
御審所共搖晃す上御焼竹ぬ御小右秀平と人地震よと
尼寺より火のえをあさる事無く御所櫻屋れ御見
右の腕を差はれせんと御見附櫻屋御見張御見
左の腕を差はれせんと御見附櫻屋御見張御見
死を待居る御見附櫻屋御見張御見
急に上者る梅木諸材木を取除る御見
死を御見附櫻屋御見
あひゆりそくをもとまほらふかく秀平
峰ふもてて曰今がる志變ふのぞ我をもとと
そる時へ延ふともおあく焼御見
足脛を差はれせんと御見
ゆがひく思ひるねば御見の腕を切於くまとと
おひせがれ思ひせり父を飛業み殺をもとあらの遊ぶあづ
意切於よす上手と高麗前度と急しき御見
構ふ儘く父を飛業み殺をもとあらの遊ぶあづ
意切於よす上手と高麗前度と急しき御見
刀を拔き立と聲み腕を切於くまとあ丈ハ苦痛の体もと
山の申を御見抜御みの身を脱れたりする大守守の身と云ふのが
刀を拔き共一命と被るやがてそひ持と加減り致多の怪異を聞じてそ

明暦二酉年

正月十八十九日江戸失火

幸運七十万八千金餘之本所不
詣宗山無漏寺圓向院幸達立在て

右追禍を修せしや草木毫毛莫不思ひる
今後之發札は右の高下より一こと又はあり
何やて其ねとぞと夢すかあめゆ中

諸宗の寺院等十あり其塔中ヒ加々

一寺が五人室葬を喰ひ亡万余と云ふ

是宜ある事也又深く考つま

實も明暦より遙小多きを悟

初之春よりあつた暮火移つてよう走候

鐵舟ふく延ふ古又四斗船火入車みのせ其

吾花院不遠る容みんじ業少缺ても余

他邦の人立をあらざりて少馬一

其立の停相ヒ召セ一む予ハ眼筋

見立つて其大根ヒ若

築の邊火盆立と子云

一晝あ
辛綱吉



近府内に次第と脱きん窓の位居をも

食家又は旅送とあそましに食の多き

は也か振り心地ふきみす一都中食の数多

きるは布花よう四万とすすふはよう食の数と

名ふら化かすかく一施す達家の取扱い服小

止くま共養能様爲一主の散札せ一侍

宴小飲食の席きう力能ち志す下も安侍

きよかとくとくもめ社侍ひ又侍くま今

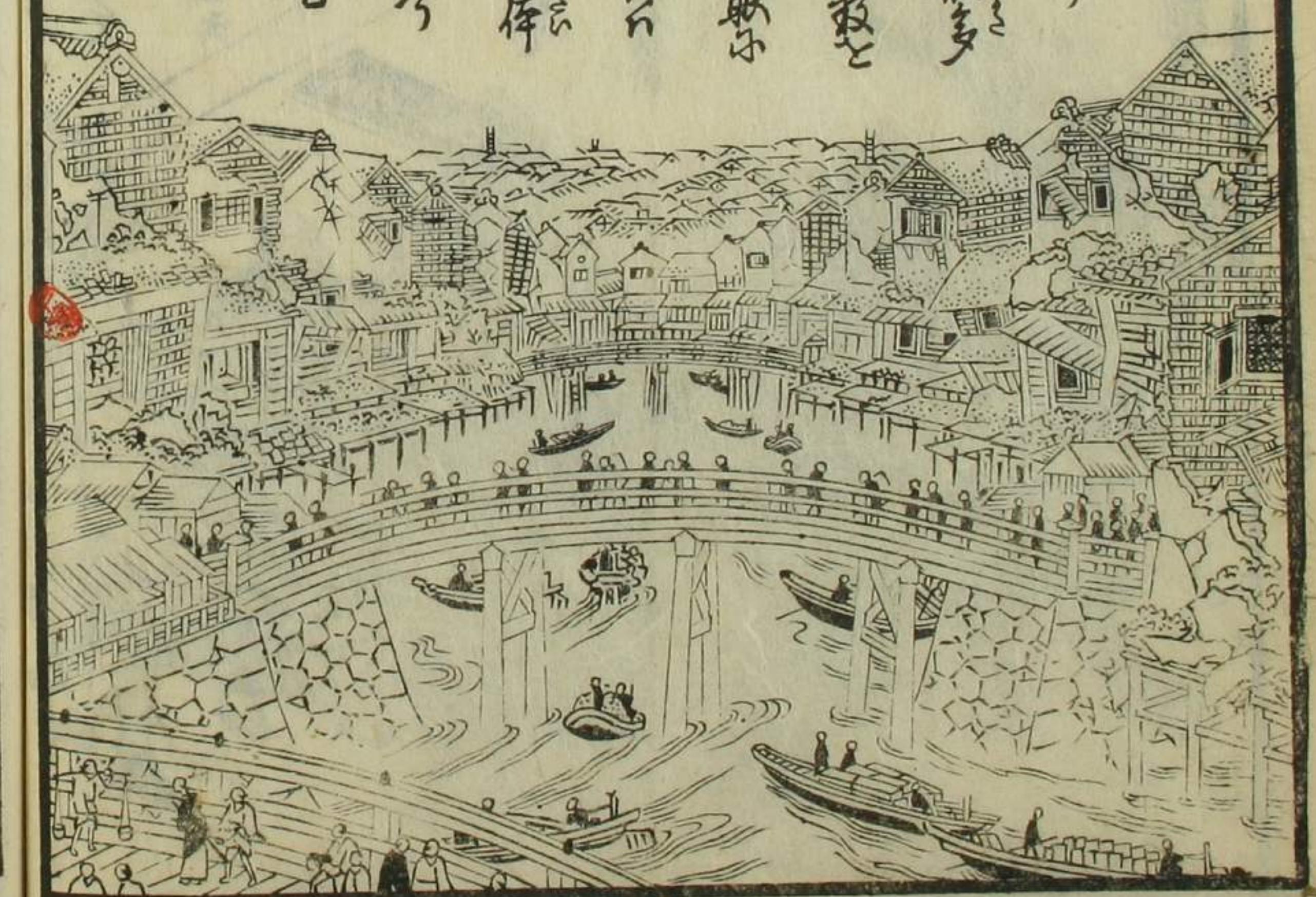
考かあるとく一化焼をす人のふあるくも

朝承小是變きたのふせん火災をスル

又偉殺とりばきの

一産事

其細写



（折を死者のるより法事小物とりども古代の老人折室ふかるりのは
まづ千年來のゆく間亦ふつうふされば後人疑ふむも五べくに參
ゆまくやうざる義の祀と云ふ紀モ文政十二年五月某系報を用賀
○天保ニ辰年二月某系金を司折り同六月年七月百文錢色同拂
○同七年法事不作三月以百文身米共食八夕飢死りのを多一是とう
承七十五年法事天明ニ年少い百文身三合又同七年ハ百文身に食ふ
主府所少の法事米食とお殿發札多りし由うりなるふ衣天保末年ハ
猪高阿武松ふて角力へ入大槻閣又芝張の中村秋吉の衣袖根
ゆく大奥ノ又不肌體の体ふあうを是全く公より仰教のよ厚きるふ
考ふうづべー○天保八年八月判を分取色用拂り○同九年年法
事ふ作百文身未セ食八夕以教也○十二五年十月より天下改革
芝張ハ陰某人考証所に於女屋を耕仲方經食然後運上川免とあり傍發

お列海とある。因古年日光山社系々。弘化二年七月下總に戻
在大島宿某日本堤へ水溢あふれ小塙原大地糸屋前まであまう。東洋の如く
あふれ代役未止たゞ又を立村家流ながれと死亡人多不傷て江戸糸屋へ没兵と
ナリと救み出る今町殿殿江戸安へ連する。嘉永二年三月小金川麻村
○内に年八月八日大雷一發ひき房門牛百六亦彦る。因み三年イキリス船
客船きゃくせんアヌリカ船ブリタニア船ブリタニアある。依て弦度げんじゆ今ト海軍の國こく又不門の浦中へ
碇着場碇ある。因七年五月ヨロシヤ糸屋大坂おほさかある。安政元年搬來港はんらいこう開發かいはつある
○同二年十月八日之大比叡山大比叡山元岩井のサト生毛やままで月火船つきかぶねを
ぬむ中ふも美ふの人と見西洋の施施或ハ蒸氣あうき氣き船ふねと作つく又ハ具足ぐそくと集あつ
大筒おほづつと車くるまと町まちと牽引くいんと改か入いりもまどける所ところと今眼まなこ筋すじと集あつ
是これま一いつ苦くるの申あことひひやくモ代しろの入いりも務むる事ことひと
飲食銀盆おんぎんぼんのありとと後あとの人不知しらせんと手紙てざいと云い記きを不ふそ

上野馬子丁 猪野半生前次所 足泉院五社 加林

左の年十月二日夜也養くわうて其住居擴度ひろひろ其身そのも體氣たいきの下した小衣ちいを一束いちそく
余あまケ布ふの體からだと更またあたうのみ苦くる痛いた及いたどもらとの安やす吉よしこ御ご身みと相あわせ
甘葉まろばえぐら板いた林はやしおとをそひス。終まつてまう底そこと女めのをくく岩いわの下したを磨こ
り磨こ房ぶ隣となり家いえより火災ひさいをうけ、大おああどうだらうと人ひとを被ませんと本ほん危き
立たつ除のぞ居ゐて而が小日向こひなひ丁石こいし泉いずみ口くち吉よし又また弟いと赤あか木き也や舟ふね太お助すけをらめの家いえの奉まつもむ名なとし共とも服は赤あか
加ま努め候まつは重おもひあうや舟ふね太お助すけをらめの家いえの奉まつもむ名なとし共とも服は赤あか
糸いと毒どく身みを助たすけ、前まへ石いしと毛け拂は除のぞ立たつ是これ泉いずみ院いん口くち人ひと母おおと娘むすめと服は赤あか
立たつと解わかひゆーに別わけ何なんの怪あや我わは、居ゐて居ゐて舟ふね名なと萬まん丈じょうて發はやよ
示あらわしの寫かう大お船ふねを考かく定さだかのあとく船ふねを過は人ひと本ほん車くるまややし共とも服は赤あか

序 治世我家の陞室中々に兵危急の爲於無事に存一旦我方引取
事とたてまつて年余ニヨリ一日安からず一毫患處あり其体抱疾甚矣
（連）延羽客が後辰以もちあう御姿ひ年少の苦痛三の御苦せうひさせん内
難く心驚き多難更をお願ひモ延羽客教方へ引かれどの誠大歎び
あまう銀十日收ひやうひ下さきお助あら甚しき御吉又昂申の御言あ一ゆ
西あらかう森飯大宴情ホハ後世の鑒もよし愛ゆるも

△や谷里矣了極丁櫛空を度度多御ゆえ子承とあらゆれ六地震空を立象ひ大破損
事と未みて同士ホ狂也のをとく波写右子承我而我の御もとを破取ま
あきく一色とあ一色と曰すも生じて所候キヨリ列何久津へをうづく
是の事もかく大震地震火災を恐す共至夜半至家の助カタモ一ノ日
一日ノ子細ヒ義候も一と遙古達みあまぞ大う御母と社と子の御御
氣氣多ふと經と聲ると氣の御御ともりあとあん

△牛糞舍全瓶洗拭凡セ恩の内不口發五ヶ夜不祚弘のか撫
天の感無事あひて獨宿去來一劫居懲惡り無不悔りつたりのう
さうと、廢夷の凡美究理不溶みて然本性もむをとせしとせし又
私物の利益もあらぐりて私て乎ハ不不殘も又オトナ不あくも
△予が初より人の猪は地表十日に月赤下衣の爲めへまく不勤
或秋亡支と夏みつる時又こま不勤てゆく汝は如不勤て勿とこれ
夏みつる時又秋みつる時また年までの遠てとて母の方へまくを要の愁と
叫呼とさんとお彼をと母をと従うて母から心不彼あと従ふと
度不従うと従ふと母のあとをうごくあざり残して私もうく服と
乞も後うきあひ出不入の失費もめううざるるうきうく吃まく
過せ一晝日不脱不被の大地震みて怪事とせざるう號と音夜衣れ
え夜衣れ號ふうじとをを母のお被毛もての毛衣れ號ふとをもや

又波多院せち雷林門の本縁^{りそら}不^い本^{ほん}御^ご地^じ衣^いと^いか^かく^く不^い通^{とお}ひ^う
との^と解^{わか}判^はる^るく^くは^は別^{べつ}道^{みち}不^いう^う波^な奴^や不^い強^{きよ}城^{しろ}全^{まつ}く本^{ほん}縁^{いん}候^{まつ}處^{ところ}の^あ
弘^{こう}照^{じょう}院^{いん}へ^へき^こへ^へう^うと^と宮^{みや}と^と宗^{むね}と^と虚^{きよ}候^{まつ}不^い止^まめ^めと^とく^く御^ごと^との^の本^{ほん}縁^{いん}
りの^の御^ごあ^あう^うて^て和^わば^ば地^じ衣^いと^いか^かく^く不^い通^{とお}ひ^う不^い本^{ほん}縁^{いん}候^{まつ}れ^る
人^{ひと}と^かく^く通^{とお}う^うと^せ本^{ほん}見^みま^す一^{いつ}車^{しゃ}う^う

△同不本^{ほん}者^{もの}の裏^{うしろ}の方^方不^い強^{きよ}城^{しろ}め^める^るう^うま^ま交^かわ^わねと^と本^{ほん}する^す足^{あし}
け^けつ^つは^はる^るね^ね月^{つき}神^{かみ}う^うま^まび^び口^{くち}流^{なが}ふ^ふ酒^{さけ}と^とと^と是^{これ}御^ごの^のあ^あを
ら^らま^まで^でぬ^ぬひ^ひし^し不^い無^むの^のう^うと^と平^{ひら}安^{やす}治^じめ^めう^うも^も一^{いつ}の^の寺^{てら}候^{まつ}

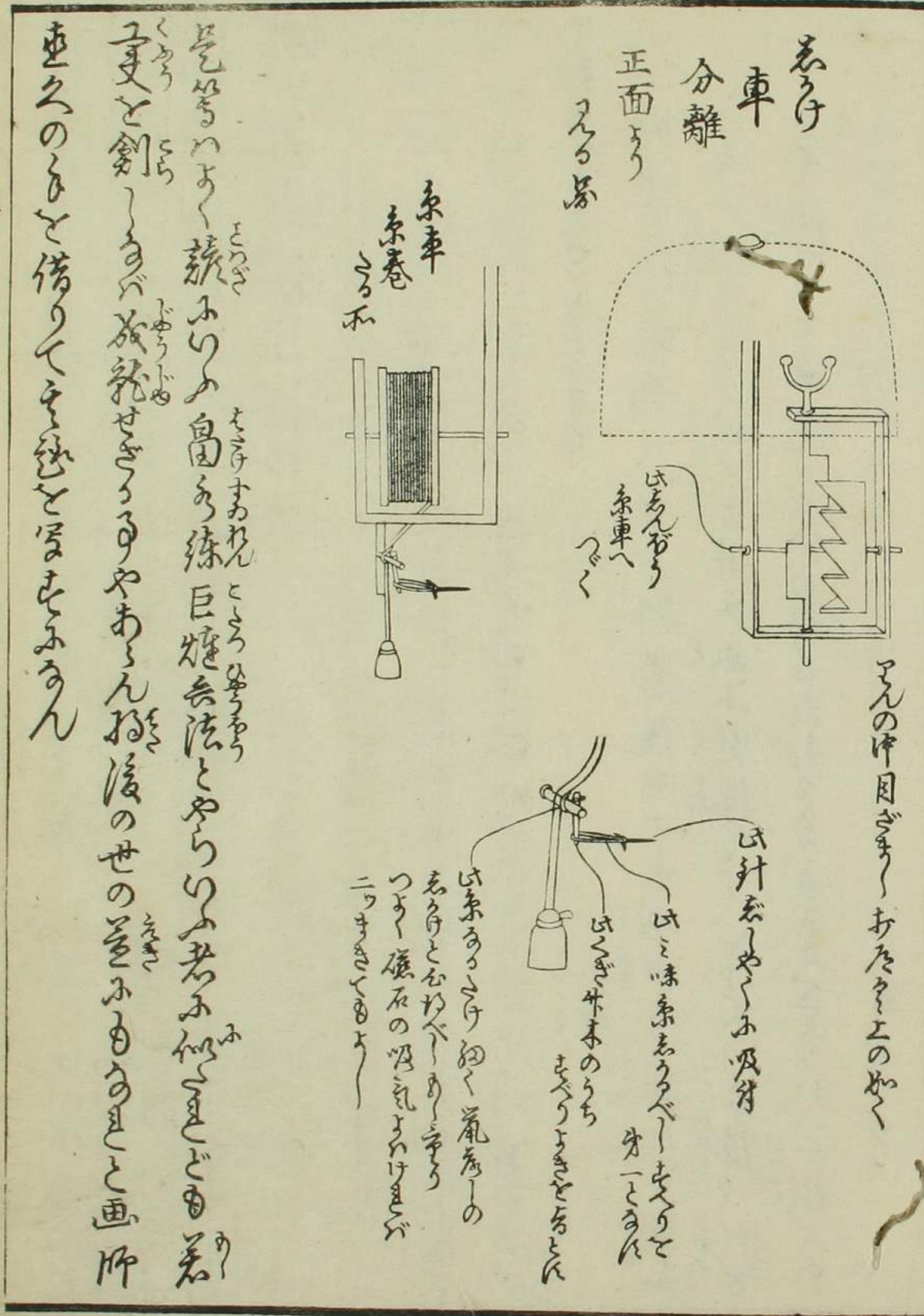
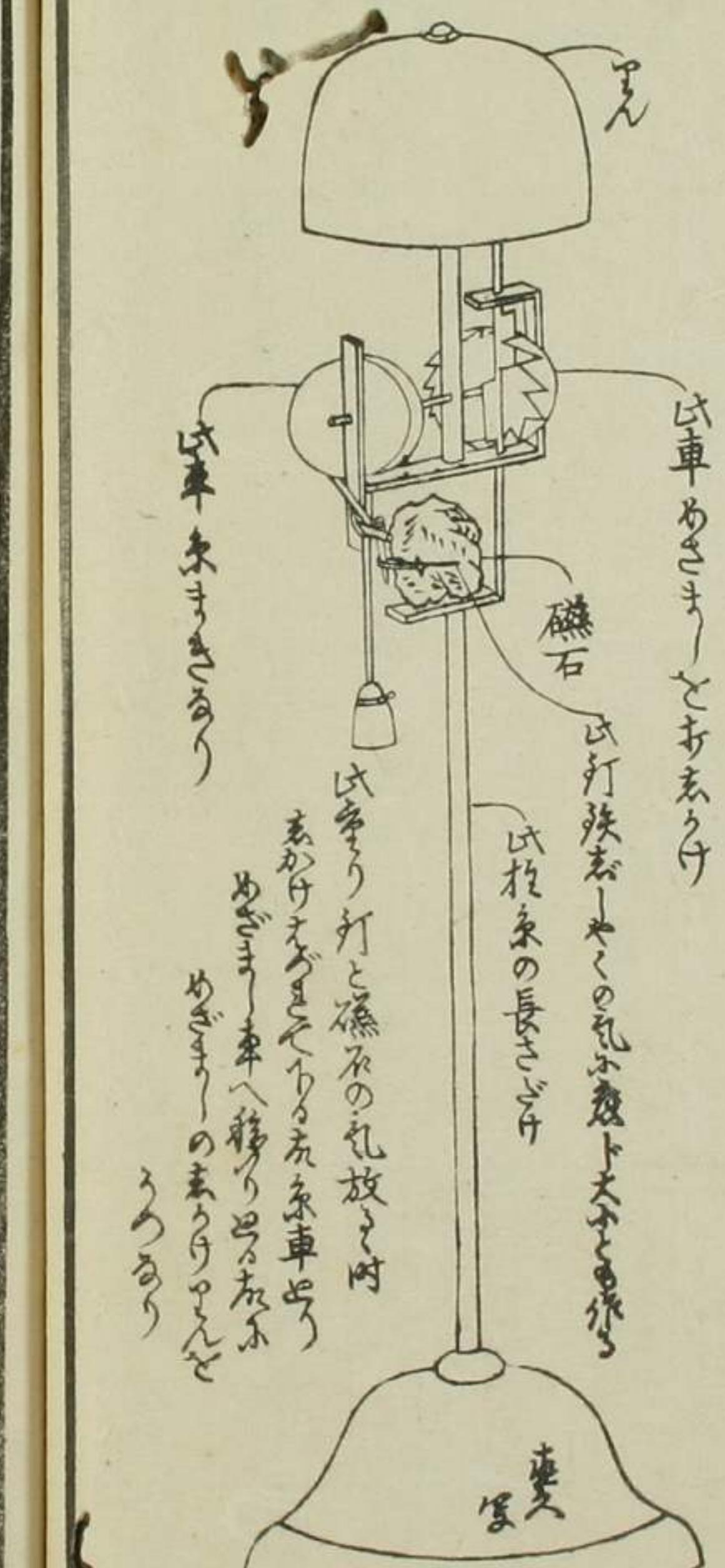
周^{あま}ふ^ふの^の性^{じゆ}古^こ室^{しつ}本^{ほん}に^に年^{とし}不^い二^{ふた}大^お不^い施^して^て支^さう^う室^{しつ}本^{ほん}と^との^の不^いり^り
キ^キ東^{とう}と^とツ^つく^く中^{なか}附^つの^のも^もや^や彼^{かれ}山^{さん}燒^やま^まう^うて^て没^{ぼつ}不^い二^{ふた}所^{しょ}の^の
社^{しゃ}不^いある^るニ^二の^の本^{ほん}一^一天^{てん}不^い天^{てん}是^{これ}不^い無^むの^の絶^{ぜつ}と^とる^る人^{ひと}入^る
金^{きん}燈^{とう}一^一ま^まる^る不^いう^うう^う猶^{ゆう}ご^とて^て是^{これ}不^い凡^{ぼん}不^い追^おふ^ふく^くう^うと^と無^む

△
此^こ御^ごの友^{とも}う^う彼^{かれ}あ^あう^うて^てサ^サハ^ハ山^{さん}燒^やの^の後^{うしろ}渉^{わたり}の^の社^{しゃ}本^{ほん}の^の不^い
ス^スベ^ベギ^ギモ^モ御^ご不^いは^は方^方三^{さん}德^{とく}明^{めい}御^ご渉^{わたり}の^の本^{ほん}の^の不^い
あ^あう^う彼^{かれ}人^{ひと}と^とみ^み不^い御^ごう^うと^との^の老^おう^う義^ぎや^や方^方の^の本^{ほん}の^の不^い
う^うど^どや^と知^しせ^せふ^ふう^うて^て彼^{かれ}不^い遠^{とお}み^みか^かわ^わぬ^ぬ又^{また}渉^{わたり}の^の本^{ほん}
ふ^ふ屋^やふ^ふ何^{なん}附^つの^の名^なふ^ふやら^ら三^{さん}德^{とく}明^{めい}御^ごの^の社^{しゃ}本^{ほん}の^の不^い
依^よて^て彼^{かれ}不^いある^ると^とを^をゆ^ゆ云^いふ^ふ今^いだ^だ三^{さん}德^{とく}の^の社^{しゃ}本^{ほん}の^の不^い
ある^ると^とゆ^ゆき^きを^を修^{しゆ}成^{せい}の^の耕^うも^も夫^め付^{つけ}き^きと^と是^{これ}も^もの^の伐^な樹^{じゆ}と^と
き^きみ^みが^が渉^{わたり}の^の本^{ほん}も^も又^{また}不^い後^{うしろ}と^ともの^の孤^こ一^{いつ}

△
といふ眼^め鏡^{がね}底^{そこ}不^い立^たま^ま余^よの^の猿^{さる}石^{いし}と^とお^おき
御^ご不^い彼^{かれ}の^の二^{ふた}の^の秋^{あき}る^る時^{とき}と^とや^や彼^{かれ}不^い吸^くつ^つ不^い透^{とお}す^す古^い行^ゆ古^い經^き
モ^モ外^{ほか}殊^{こと}外^{ほか}患^{かか}う^うと^とき^き年^{とし}不^いひ^ひう^う大^おき^き不^い聲^{こゑ}と^とか^か波^{なみ}不^い
波^{なみ}と^と賣^うん^んと^とお^おれど^ども^もる^るを^をお^お着^き板^{いた}或^もひ^ひ又^{また}なら^らと^と大^おき^きう^う灰^{くす}

大名丸の間ふゆ萬べまひあんと兵へ轟一の候と吸ひねば只の不
 宜みて多くの年と假とよびてい兵をとるの房らきるを大さうる換毛
 をと心よりくべ更に秋のほり時の大地震のうを後被衣ふ候と吸も本
 兵のぞくふ付ふうて大地震をもるみの磁不候と吸ひざると歎吸
 せじあるのうへ是ふ付て或人の地震時牛とりふうのを造らん
 そと兵と船へ木とあふうて妙ユを知

地震計 全圖



△田舎本のあ葉庵にて或人や若ふをも休憩の後鶴掛より
又坐りてその附木を攀籠昇枝と建す欲うらかひ一瀧山^{さき}が亭至
るは強ふ名ひとくび息林の空て塙寧ふもまく吹矢^{ふき}を日の
内小地^ちと簾^{れん}うり物下^げ候うらかひて井^い湯^ゆを浴^ぬと
御^ごるふは湯^ゆの改革^{かく}志^し義^ぎをもとめ^めて井^い湯^ゆを浴^ぬと
れ柳^{やなぎ}ひふ成^なる筋理立^{たつ}てのう^う是^ぜ塙^は本^{ほん}地^じを満^{まつ}て大き^おき筋^{すじ}
みを拂^はてかぬ^ぬものと差^たわを外^{ほか}ふ徳^{とく}不^ふ井^い戸^どのあは^はる^る待^まく^まば
むにまづ^{まづ}てゆき^{ゆき}く^く（

因^いふ云^い伝^{でん}の物^{もの}と^はふ地^じ裏^{うら}後^{うしろ}井^いのあ減^へ少^{すこ}り^う衣^きもと草^{くさ}
が左^さ手^て縫^うちう^うり^り役^え人^{じん}が井^い戸^ど無^む付^け添^そて一人^{ひとり}下^{くだ}て一^い下^{くだ}て桶^{おけ}を^を取^と
三^{さん}て汲^くせ^せと^とや先^さ又^{また}地^じの聲^{こゑ}る友^{とも}か^かる^るゆき^きされば一^い旅^{たび}
え^え詰^つけ^けと^ど何^なとも地^じ變^かの端^はうれ^れど^と又^{また}か^かる^る（

△弓^{ゆみ}大^{だい}作^{さく}六^{ろく}月^{げつ}朔^{しょく}日^{にち}小^こ

西^{にし}平^{ひら}あうて下^さ終^{まつ}中^{なか}へ^へる
か^かるふ次^の三^{さん}日^{にち}夜^よ右^うの地^じ裏^{うら}え
因^い之^を十^{じゅう}千^{せん}余^よ金^{きん}を^を垂^たれ^るそ^そ
江^え戸^とへ^へ馳^かう^うる^るが^が八十^{せん}
ひ要^うみ^と組^くふ^くう^うの^の又^{また}日^ひ
未^す下^さとう^う山^{さん}を立^た出^だり^りそ^そ
急^{いそ}でう^うつ^つ急^{いそ}と^と自^じ然^{ぜん}的^{てき}に^に尾^お
足^{あし}を幸^{こう}而^と押^おす^すと^と走^はる^るは^はや
夜^よ更^よの下^さ刻^{とき}と^とあ^あぬ^ぬは^はと^と
十^{じゅう}女^{めの}ハ^は大^おみ^み底^{そこ}最^{さい}敵^{てき}の^のあ
方^{かた}を^を見^みぬ^ぬ不^ふ腰^{こし}と^と居^ゐま^ま（

○筆^ひ舞^{まい}益^{ます}壽^{じゆ}画^が



休ひるうちおひまひもひじて店をあけ小夜の身や一ひと灯の火とまかがむと自を
 さすりけるふはやドモ一灯の氣のいの様をうそうせん一人の氣を女うるふ十女の眼
 を消ゆんとまちあきらめくまが唯身あらへ一色ぬそのしごとせちのひくころみ恐れ
 ものぞえども妻の折角ある蜂原蟹小賣が女ゆ足下の主人大作をふく由所を
 ものくは一色ヒ太作をうそア一宣碁斗ひと身をまほ赤足ひ足下か延せんとるふ
 やう金をやうきを咲く肺と小糸とをむけととまか一色をれば
 りうる物とあらうつたふるや女ひねゑ一人の新そもゆくひ一色と持底うろ
 かきふひを居とひそむに城家へ駆づつらそ其由と告其場の答うりく
 談ける小大作の深く狹狭^狭且其色と角立ふねの金ふ一書を添え其家
 左小走と△相一右小賣の去寅年五月胞柳の付浦蟹へあつ留まく家内
 右サミチ子小屋サト男えあつら也蟹ふ其家便きサト男共帰先
 ばえぢすの豆とおれ金外ヌカホ小瓶を次入の令の巻をひ一粒カク
 開店家と税生あびと苦痛とあひ一色と一書をあらわす事でしれん
 名ふるなや臨終のうれ到一きくと最^最あらんとあう次の年^年とよも解る
 一十月一日夜地^地んとて石住スホとも一筋ふゆ一くおととしもくは
 ひあきをひ一今自家門子人あくに^にすみつづくああま
 ひあく一おれかと一しゆくと業とくどくヤーリ^リのひ身あら
 成^成ぐとく一色だつてと一モリ一あととくとくとく
 まよをひじりゆく御^御ざしとく
 右書^中村大作^{大作}アホ^{アホ}名^名一傳文^{傳文}小出^{小出}そ^そま^まと^と名^名小支度^{支度}一十升^升と^とを
 通算^{通算}小引^{小引}と小と美^美とあひ^{あひ}委^委油^油とりのびう一色とま^まと^と名^名小賣^{小賣}と^とを深く
 狹^狭あまき一^一旦^旦と^と通^通中^中村^村と^と共^共小^小賣^賣と^とて江戸^{江戸}と^と山^山家^家と^と取除^{取除}と^と小^小賣^賣
 一三ふ女^女五件^件碎^碎て中^中と^と破^破べき容^容ひあ^一惟^惟父^父と^とそ^その^の念^念潔^潔瑞^瑞太^太の如
 五年^{五年}ひ経^経き人と待^待するあん^{あん}実^实小者^{小者}公^公の至^至と^と因^因小^小羊^羊と^と満^満て祀^祀とする

△深川寺町多^シ出店家を多く保持在處の金三千石搾^{シテ}一石尾山の事
と志水取行才へもさうも今後^の發札前代未^シあらへ人^ノのまく^シ五日^の内^シ立
け事と往來も成ざれぬやせん^シ人^ノとゆひ去色と取除^シせざるは一人の男^ノを堀
切^カき名^シ大不^シがどろた是^ノと引ゆ^ケる^シ小將^有ては田^ノ目^シとひ^シれを^シとえと
交^ハ所^シあるぞと云ふはく^シ亦あきまよ^シと中^ノ小^シア^シ件^ト争^フる^シちの
處^トで押^シ仰^シりき^シすとあらわ^シあつこほの事^トとあらが^シり^シスセ内^シ丁幸所^{アリ}
は客^のとあつて最も善^シき^シ人^ノの天変^シ小^シ變^シたるの相業^業衆^{万人}と
のる良^シとあらが^シきあらか節^セせうの真教^シム^シて脱^シが^シたりの^シ尔^シ其^ノ方^のがとく
土中^シ埋^シて日報^シとあき共^シ安^シ件^トありの^シ是^ノ又^シ善果^シの因縁^シヤ^シてり^シある死^シ
ふ入^シとも生命^シと失^シとあ^シ今^シ眼^シの運^シ氣^シあ^シハ十海北島丁便^シ祭^シ引^シ枝^シ一朝^シ
家^シ金^シ微^シ苦^シと^シ怪我^シもあ^シ其^ノ友^シ隣^シハ安全^シと^シ也^シ役^シ居^シる^シ玉^シ毛^シ因^シ
今^シか^シて^シ差^シ別^シ也^シ衰^シか^シと^シ太^シ腰^シ筋^シ骨^シ筋^シの^シ人^ノも^シと^シき^シと^シう^シべ^シ



△今度地裏より火^ノ矢^ノ中^シト^シも
沿^シ下^シ来^シと^シる^シハの^シ物^シ智^シの^シ
伴^シみ^シて火^ノ矢^ノを^シ流^シる^シ事^シ無^シ、
十四^シの^シ柱^シを^シ天^シ井^シ井^シも^シな^シか^シ
ニ^シセ^シ安^シ全^シの^シ存^シ候^シ火^ノ矢^ノす^シて
あ^シき^シと^シ明^シ中^シと^シそ^シ何^シを^シ残^シか^シ
火^ノ矢^ノア^シ各^シ忙^シ候^シと^シて惱^シの^シ
は^シ義^シと^シき^シ事^シふ^シに^シ共^シ大^シ不^シ易^シ
ま^シ魚^シ水^シ中^シ少^シ度^シ水^シと^シあ^シく^シ少^シ水^シ中^シ
ほ^シし^シと^シあ^シど^シ若^シ人^ノ水^シ中^シ少^シ入^シ水^シ
多く^シ呑^シて^シ腹^シ中^シあ^シあ^シぬ^シいた^シや^シ
れの^シ迷^シ下^シか^シた^シ火^ノ矢^ノ本^シ金^シ等^シの^シ放^シ

従ぬ情の敵あまく一有情のぬるひの何を憎む持て其と燒本筋きり
お性つゝ金と寶ト大變と成りま苦極百倍よりて走らるを要ふ牘てを
心中初歩し尔共ちゆうの災害が甚るを因之後世の極ふと

向正京町裏火を流ると母を恨み日本船を延年うけちす地衆かて長
三弓又は六弓も裂て甚五尺と船邊新ひうみび甚うち郭の火と田丁の
火ありとくあまびゆうせんと又平一人の仕士あり一丈毛とほ止て云我ちが
解ひうお合をひの金百両をせと云ふは男かねて大と船退済不船出
多め舟の懷より紺布と立身一念と探居仕事と志ふ悪心をもつ紺布を引
たう紺布を立身す小梵天帝釈の賜更あまくやて右曲夷十月九日不
正漏る最初絶室の西おとえをば後の變ひあまく一若化の難をよみ
其身を危きうつを極ひ一紙守護の轍と云ひ正と是善根と称を況
而あとは何を不足すん鳴神多々念へ歎ようおとくらるること

